

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3072500436		
法人名	社会福祉法人 熊野福祉会		
事業所名	グループホーム熊野本宮園		
所在地	和歌山県田辺市本宮町上大野字田平630-1 (電話) 0735-42-1838		
評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成21年10月14日	評価確定日	平成21年11月5日

## 【情報提供票より】(21年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,480 円	その他の経費(月額)	光熱水費 6,080 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900円		

### (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	社会保険南紀病院、小淵歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームでは自家用温泉を設ける等、地域の資源を有効に活用している。管理者の落ち着いた、それでいて利用者本意の施設造りの熱意が伝わってくる姿勢と職員の教育には、地道な努力が伺える。ホームの独自の理念を挙げ職員もそれを理解し職員自身が利用したい施設づくりに努力している雰囲気が伺える。管理者は地区消防団の活動や、認知症キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座に取り組んでおり、地域住民の理解を得られる努力が認められた施設になっている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価改善課題であった家族等への報告は、毎月健康チェック表に一ヶ月の健康状態や変化を記録して家族に送っていて改善されている。また、積極的に外部評価や地域での役割をカンファレンス会議等で説明する等、更なる努力が伺える。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は施設の実践を見直す大切な機会である事を、認識し職員全員で出された意見をまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>施設の事業報告や職員研修など具体的な取り組みを報告し、積極的な意見交換が行なわれている。家族の代表から「遠足など家族にも呼びかけ参加しては」との意見があり、実施する中で理解も深まり、家族同士の交流にもなっており、有意義な取り組みとなった。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>毎月の家族への園便りや玄関に明示して、意見を出して貰いやすいように呼びかけている。運営会議などに家族代表として参加を求め、出された意見については運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者が地域の恵まれた環境の中、自治会活動に参加している。また、地域の祭り・行事に参加するほか、体験学習の受け入や、保育園・小学校・婦人会の訪問もあり積極的に交流を行っている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「声かけ ふれあい 笑顔」という事業所独自の理念をつくり地域に密着した暮らしづくりに努力している。また、運営理念・基本理念を掲示して地域の方へ理解して頂けるようにしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有にと実践に向けて日頃から施設長・管理者・スタッフが話し合い取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加や、本宮祭には地元企業に見学席の提供をうける等地域との交流を行っている。また、施設盆踊り大会や、大学の福祉職場体験の受け入れ、小学生の車椅子体験の実施等積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を充分理解しており、日頃の業務にも活かしてよい刺激になっている。今回の自己評価についても皆で話し合いながら、管理者がまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的月に2回開催している。ホームより事業報告をし、職員研修等具体的な話し合いを行い、積極的に意見交換しサービスの向上に活かしている。運営委員会のメンバーは町職員、民生委員、地区・家族の代表等で構成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、新規利用者の情報や研修等の指導等、行き来する事も多く連携が取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月領収書に添えて健康チェック表送り、家族に健康状態を知らせることで、面会に来れない方にも安心できるようにしている。また3ヶ月毎に送付する園便りに出来るだけ写真を多く入れて行事や生活の風景・表情を伝えている。また、職員の異動も園便りで知らされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出された意見は運営推進会議に報告内容として出し運営に反映させている。また、意見等出していただけるよう重要事項説明書や玄関に掲示している。運営推進会議に家族の参加があり、家族同士の交流の良い機会になっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人施設が同敷地内に設置され、利用者は日常、自由にデイサービスに出入りしており、職員の異動があっても違和感を感じないなじみの関係が出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実務者研修に順番に参加したり、年間計画をたてて施設内研修等も実施している。また資格取得研修も法人内で積極的に取り組んでおり、業務トレーニングに役立っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO法人地域密着型サービスケアネット和歌山に加入し他ホームと交流している。また、ヘルパー研修等を共同で開催する等、互いにサービスの質向上に努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族がホームを見学し、雰囲気に慣れていただくように心がけている。入居した後は家族の協力も得て、電話などで家族のつながりを継続しながら安心出来る様に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	趣味・仕事など得意分野を活用して農園・食事下ごしらえ、洗濯物のたたみ仕事など手伝って貰っている。食事風景には特に、味・食材について職員・利用者とも楽しい会話で共に支えあう関係が何える。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事・お茶の時間などを利用してゆったりした時に、本人から希望や意向を聞きだすよう努めている。把握した意向は記録に残し、利用者本人の望む生活に向けて取り組みを検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成には、一部センター方式を取入れ応用し、利用者・家族の意向をまとめ検討して、関係者の意見なども反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画見直しについては定期的に3ヵ月に一回行っているが変化があれば、その都度ケース会議や家族と相談し、見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地内に特養施設・デイサービスがあり、利用者は毎日のようにホームとデイサービスを行き来している。また家族の協力を得られる利用者は、定期的または盆・正月などに外泊支援をしている。また、墓参り、見舞い、受診、入院退院などの移送サービスも支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは10分程度の距離にあり、月一回の往診や急な夜間往診もあり、かかりつけ医からも適切な医療がうけられる。毎日の健康表等情報として、必要時医師に提供するなど、連携が適切に行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時の事を早くから、本人やかかりつけ医、家族と話し合いの機会を持ち、職員も方針を共有している。終末については看取り経験者もいるので話し合いながら全員で支援に取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	園便りについても、入居者の写真を掲載しているので、配布について家族に承諾を得て必要最小限に留める等、入居者ひとり一人のプライバシーを侵害する事のないように努めている。また、記録など個人情報については、充分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの都合やペースを大切に、職員もゆとりを持って接している。外出・行事への参加なども、本人の意向や体調などを確認しながら希望に添った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	むかしの味覚、地元食材を料理したり、畑で共に栽培したキュウリやトマトの野菜を調理する機会が多く、季節感を味わうと共に、昔を思い出して、にぎやかに職員達と談笑しながら食事をしており、後片付けにも利用者が職員のさりげない動きで一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	法人の温泉があり湯量も豊富で好きな時に毎日入浴している利用者もいる。家庭的な、こじんまりした浴室は露天風呂にも似た構造をそろえており、谷や山を楽しみながら、ゆったりと入浴できる。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の生活史から、趣味趣向を活かして菜園の手入れ、掃除・洗濯・食事の後片付けそれぞれが楽しめるように、また来訪者と話したり接待したり等、喜びのある日々を過ごせる様支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設のデイサービスを利用している知人友人との面会・散歩・ドライブ・園芸など日常的に戸外に出られるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出来るだけ家庭の雰囲気を出せるように、日中は鍵をかけないでいる。一時徘徊外出される方がいたが、後をついて行く介護をしたところ、徘徊しなくなった。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で、法人全体で年2回避難訓練を行っている。夜間帯の想定訓練も行っている。管理者以外にも法人内から4～5名の職員が地元消防団に所属し活動していて、地域からも協力が得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立を作成していて栄養バランスは配慮されている。また一人ひとりの摂取量・水分量など個々に記録されており嚥下能力・歯牙の状態により、きざみ食・ミキサー食など工夫し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは木材を多く使われた落ち着いた雰囲気、間取りに開放感があり季節感がふんだんに味わえ、採光など落ち着いた居心地の良い空間が工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れたものを持ち込み、それぞれが自分の居室として居心地よく配慮されている。手づくりの花瓶や、壁掛け、造花、写真を飾り自分らしい居心地のよい時間が過ごせる様に工夫している。		